

# CIA 資格取得の方法の研究

平成 19 年 3 月

日本内部監査協会

CIA フォーラム中部 No.1 研究会

## 目次

1. 研究の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 調査実施メンバー(CIA フォーラム中部 No.1 研究会 メンバー).....	2
(1) 座長.....	2
(2) メンバー.....	2
4. 調査結果.....	3
(1) CIA 合格者の人物像について.....	3
① CIA 資格取得の動機.....	3
② PARTIV試験免除制度の利用状況.....	3
③ 受験状況.....	3
④ 受験前の保有資格と業務経験.....	3
⑤ 合格者のプロフィール.....	3
(2) 勉強法について.....	4
① 主たる勉強方法.....	4
② 勉強開始時期、勉強時間、勉強場所等.....	4
③ 勉強項目.....	4
④ 苦手科目の克服法.....	4
(3) 使用教材について.....	5
① 問題集.....	5
② CIA レビューコース.....	5
③ 参考書(Gleim).....	5
④ その他教材.....	5
(4) 勤務先からの支援について.....	8
① 受験費用.....	8
② 受験時の取り扱い.....	8
③ 資格・能力奨励金(一時金).....	8
④ その他勤務先からの支援.....	8
(5) 自由意見について.....	9
① 受験決意にいたるまで.....	9
② 試験前の準備方法(勉強方法中心).....	9
③ 試験中の対応方法(テクニック中心).....	10
合格体験記.....	12
小林和雄氏.....	12
西原浩文氏.....	14
高瀬浩幸氏.....	16

## 1. 研究の目的

昨今、内部監査に対する期待・重要度がますます大きくなっている。

その背景として、企業不祥事が頻発したことに伴い、いわゆる日本版 SOX 法により、有効な内部統制体制の整備と的確な運用が求められていることがある。

そのため、内部統制組織の中での重要な位置を占める内部監査の担い手として IIA 公認の CIA 資格取得を目指す受験者が増加している。

しかし、合格のための情報が少ないことから合格のための使用教材や勉強方法がわからない、教えてほしいとの声を耳にする。

当研究会では、現 CIA ホルダーの皆さんが資格取得までに使われた教材や勉強方法についてアンケートを実施・集計してその結果を公表することにより、上記の要請に応えるとともに、CIA 認定者の増加に寄与したいと考える。

## 2. 調査の方法

調査の方法は、調査依頼と調査表を CIA 合格者 1,301 人へ送付し、各位より回収した回答書を分類・分析して取りまとめた。なお、今回の調査では、603 人（回答率 46%）の回答を得た。また、回答者の性別、年代別、居住地別の概要は、下記表 1,2 のようであった。

表 1: アンケート回答 CIA の性別年代別人数

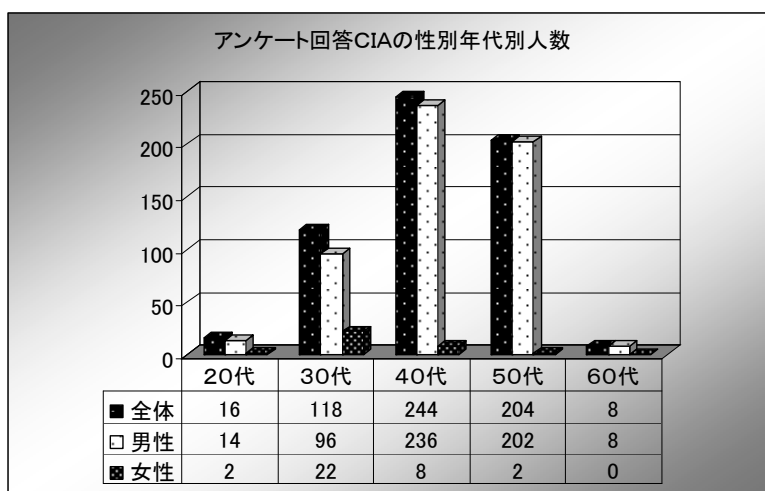
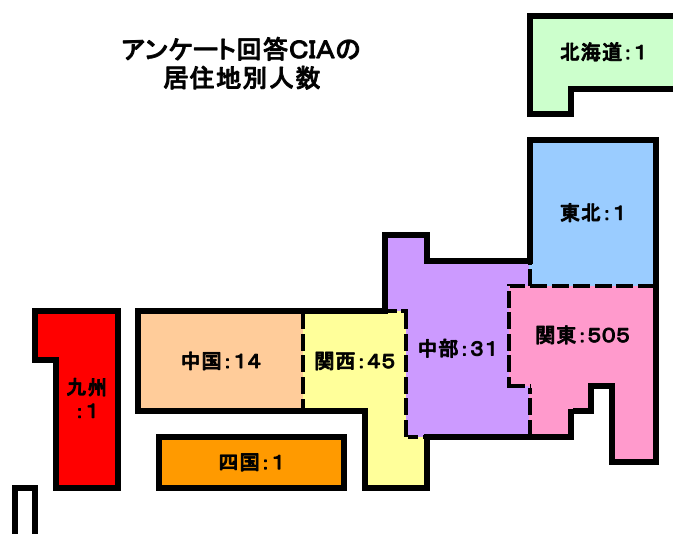


表 2: アンケート回答 CIA の居住地別人数



3. 調査実施メンバー(CIA フォーラム中部 No.1 研究会 メンバー)

(1) 座長

- 小林 和雄

(2) メンバー

- 石原 知彦
- 岩田 篤典
- 岩田 修
- 大島 嘉秋
- 小木曾 保幸
- 鈴木 俊郎
- 鈴木 正和
- 高瀬 浩幸
- 竹中 誠
- 正木 健博
- 脇野 常

## 4. 調査結果

### (1) CIA 合格者の人物像について

CIA 合格者の平均的人物像は、①動機:業務上の必要性である。②PARTIVの試験免除制度:利用していない。③受験状況:受験回数は2回、平成17年合格。初回はPARTIIIが不合格であった。④受験前の保有資格・業務経験:情報システム関係の業務経験はなく、監査業務に従事し、内部監査士の資格を保有している。⑤プロフィール:東京都在住で金融・保険業の監査関係部署に勤務している40代の男性管理職である。

#### ① CIA 資格取得の動機

CIA 資格取得の主な動機は、業務上の必要性38%、自己啓発32%、社命21%であった。

#### ② PARTIV試験免除制度の利用状況

PARTIVの試験免除制度を44%が利用しており、その対象資格は内部監査士56%、公認会計士15%、米国公認会計士12%であった。PARTIVの試験免除制度利用者の87%は、受験以前に対象資格を取得していた。

#### ③ 受験状況

合格者は、毎年増加しており、回答者のうち平成17年が31%、平成16年が23%で、過去2年に合格した人が、全体の54%であった。受験回数は、初回一括合格32%、2回が33%であった。2回以上受験した人の50%は、PARTIIIを残していた。

#### ④ 受験前の保有資格と業務経験

受験前の主な保有資格は、内部監査士29%、公認会計士10%、米国公認会計士11%であった。業務経験は、監査関係53%(内部監査44%、監査役監査3%会計士監査6%)、情報システム関係17%、財務16%であった。情報システム関係業務の経験の有無は、71%が経験がなかった。

#### ⑤ 合格者のプロフィール

合格者の勤務先の業種は、金融・保険業が35%、製造業が18%、サービス業が14%であった。所属は、監査関係部署が63%であった。また、役職があるものは56%であった。性別は、男性94%、女性6%であった。平均年齢は、全体で46.0才、男性の平均年齢46.5才、女性の平均年齢は37.9才であった。年代別に見ると、男性は、40代が42%、30代が36%、に対し、女性は、30代が65%であった。関東地区の居住者が84%であり、

東京都だけで 48%であった。

## (2) 勉強法について

### ① 主たる勉強方法

独学か専門学校の利用については、独学 56%、専門学校 44%となっている。

専門学校利用者のうち、学習の効率性、短期合格、試験対策を目的としたが計 55%、一方、情報入手を目的としたについても 23%となっている。その費用負担については、個人負担が 54%、勤務先負担が 40%である。

### ② 勉強開始時期、勉強時間、勉強場所等

勉強開始時期は、3ヶ月前からが 48%と多く、6ヶ月前 24%、1ヶ月前 20%が続く。中には1年前 6%、勉強しなかった 2%という回答も見受けられた。

平日一日あたりの勉強時間は、1時間未満が 47%を占める。2時間以上の勉強時間を確保できたのは、平日は 8%と少なく、その代わり休日は 55%とかなりの割合になり、平日での勉強時間確保は難しいことが推測される。なお、主たる勉強場所は、自宅が 59%、通勤電車等の中での勉強も 18%となっている。

### ③ 勉強項目

新シラバスでの主要勉強項目を見た場合、結果的に出題比率と近似しているが、PART I では「IIA属性基準に重点をおいた」が 44%、PART II では「監査の実施に重点をおいた」が 41%、PART III では「ITには重点がおいた」が 44%となっている。PART IV では、試験免除の方もいたが、受験者のうち 39%の方が「M. ポーターの経営戦略論が中心の戦略的マネジメントに重点をおいた」と回答している。

### ④ 苦手科目の克服法

苦手科目の克服については、CIA 試験参考問題集の活用が 54%、参考書を利用が 27%、専門学校の利用が 9%となっている。

### (3) 使用教材について

#### ① 問題集

CIA 試験参考問題集 2004 年版、模擬試験問題集 2002 年版のいずれかを使用したとの回答が 73%あり、最近の発行年次版の問題集ほど、多くの人を使用している。問題集の役立ち度合については、89%が役立ったと答えている。なお、問題集購入費用については 68%が個人負担、勤務先負担は 32%となっている。

#### ② CIA レビューコース

CIA レビューコース参加者は、回答者の 32%と多くない。しかしながら、参加者の 64%が役立ったと回答している。CIA レビューコース受講費用については、勤務先負担が 52%と過半数を占めている。

#### ③ 参考書(Gleim)

参考書(Gleim)を利用した人は 44%であり、利用者のうち 86%が役立ったとの回答をしている。購入費用は個人負担が 67%を占めている。

#### ④ その他教材

CIA 受験教材の種類は少ないため、他の関連資格の受験に関して、市販されている多くのテキスト類を併用している。(例えば、米国公認会計士、中小企業診断士、情報処理技術者、基本情報処理技術士、シスアド、MBA、証券アナリストなどの受験テキスト類・教材をあげている。)

分野別に関しては、監査、内部統制、統計/確率、IT、簿記に関する書籍・教材類をあげている。

IT・インターネットを利用し、WEBによるキーワード検索をすることで、用語の確認をしたり、HPで勉強をするのが有効とした回答もあった。

#### <参考>

なお、アンケートにて寄せられた主な教材名は以下のとおりである。記載は、教材名、著者名、出版社名、役に立ったと思われるパートの順となっている。

##### 1. 全般

- 内部統制の統合的枠組み 鳥羽至英・八田進二・高田敏文共訳、白桃書房
- インターナル・コントロール 伊藤勝教著 商事法務研究会
- 実践的内部監査の実務 日本内部監査協会編 守屋光博/渡辺克郎/角田善弘 著 同文

館出版

- 内部監査の業務運営 眞田光昭 弦巻ナレッジネットワークホームページ

## 2. PART I

- 金融内部監査士むけ通信教育教材 経済法令 (PART I, II, IIIむけ)
- 内部監査ハンドブック 中央青山監査法人経営監査グループ編 東洋経済新報社(PART I, IIむけ)
- 詳細米国公認会計士(CPA)試験テキストIV Auditing ANJO インターナショナル編 実業之日本社(PART I, IIむけ)

## 3. PART II

- 中小企業診断士試験クイックマスターシリーズ 同友館(PART II, III, IVむけ)
- 統計・確率の意味がわかる 野崎昭弘ほか著 ベレ出版
- マルチディメンショナル・アプローチ&リスク・アプローチ 千代田邦夫著 中央経済社
- 統計のはなし 大村平著 日科技連出版社(PART II, III, IVむけ)
- 統計学のはなし 蓑谷千鳳彦著 東京図書(PART II, IIIむけ)

## 4. PART III

- IT監査入門 井上洋平著 清文社
- 情報化と経営攻略ハンドブック 切通博朗著 リックテレコム(PART III, IVむけ)
- 情報システム監査の基礎と実践 日本内部監査協会 編 喜入博/島田祐次/角田善弘著 同文館出版
- 情報処理技術者学習書 システム監査技術者 落合和雄著 翔泳社
- 情報処理技術者学習書 基本情報技術者 日高哲郎著 翔泳社
- らくらく初級シスアド図解教本 小川真一著 日本経済新聞社
- 最新 2005-06 パソコン用語事典 大島邦夫/塚本勝久著 技術評論社
- マネジメントアカウンティング チャールズ.T.ホーングレンほか著 TAC株式会社出版事業部
- MBA 最新「アカウンティング」とケース分析 古住・ラマース・直子著 秀和システム
- MBA 最新「マネジメント」とケース分析 広網晶子著 秀和システム(PART III, IVむけ)
- MBAアカウンティング グロービス・マネジメント・インスティテュート著 ダイアモンド社
- MBAマネジメントブック グロービスマネジメント・インスティテュート著 ダイアモンド社
- 英文会計入門 安生浩太郎著 実業之日本社
- 新検定簿記講義 2級(商簿、工簿) 加古宣土ほか編著、中央経済社
- 日商簿記 2級教本・問題集(商簿、工簿) TAC株式会社出版事業部



## 5. PARTIV

- 新米国公認会計士試験重点解説シリーズ 企業会計 杉浦理介著 清文社
- 現代経営学総論 村松司叙著 中央経済社
- ゼミナール経営学入門 伊丹敬之・加護野忠男著 日本経済新聞社

#### (4) 勤務先からの支援について

##### ① 受験費用

個人負担が56%、勤務先負担が35%となっている。その他の9%の内容は、個人と勤務先の折半、勤務先が8割負担し個人が2割負担する場合、合格時には勤務先全額負担や合格時には受験料相当の報奨金支給などの場合があった。勤務先が受験料を負担する場合には、初回のみとするパターンがもっとも多く、2年という期限を決める場合や、4回までとする事例などがあった。

##### ② 受験時の取り扱い

勤務扱いとされる場合が36%、有給休暇を取得している場合が59%であった。勤務扱いとされる場合でも、初回のみとする場合や、回数制限がある場合などがあった。

##### ③ 資格・能力奨励金(一時金)

27%の回答者がなんらかの資格・能力奨励金があるとして、50,000円とされる場合が最も多く、最高で150,000円支給する場合があった。また合格時、受験料相当額を支給という場合もあった。支給は現金の場合、商品券の場合などがある。

##### ④ その他勤務先からの支援

試験直前の業務の配慮や、当日の交通費負担、CIA 専門学校の受講料負担、内部監査士の受講料負担、テキストや問題集の購入、先輩CIAによる勉強会の開催などがあった。

## (5) 自由意見について

アンケートを通じていただいたご意見 353 件を、分類すると次の 4 とおりに区分された。

- ①受験決意にいたるまで…………… 8 件(構成比 2%)
- ②試験前の準備方法(勉強方法中心)……………99 件(構成比 28%)
- ③試験中の対応方法(テクニック中心)……………219 件(構成比 62%)
- ④その他…………… 27 件(構成比 8%)

このうち、①②③について、特徴的なご意見をピックアップすると、以下のとおりとなった。

### ① 受験決意にいたるまで

- 資格取得そのものよりも自己啓発の為に受験しました。
- 頭の中を、「私は米人だ。ここは委員会設置会社である。」とシチュエーションを切り替えて回答しました。
- 判断の為に常識を育てる事が重要と考えています。
- 52 歳で勉強開始して 53 歳で合格しました。若ければもっといいけれど、今でも決して遅くない。

### ② 試験前の準備方法(勉強方法中心)

- 受験勉強にあたっては、とにかく問題演習を繰り返し、できない問題や理解できない問題を出来るだけ早く特定し、これを少なくすべき。
- 合格する為に何をすべきか、という観点からやることを絞らないと、何度も受験するハメになるので、注意した方が良い
- 通常の業務監査の際、CIA 受験勉強の結果の活用等、日頃から考え方を変えていきました。
- 各 Part の要点メモを作成し、繰り返し読む事にしました。(通勤時間を活用)
- 全ての科目に関連性があるので、全科目一括で受験するのが効率的だと感じた。
- 出来れば、専門学校へ通学する。無ければ勉強会に参加すると思う。
- 覚えるべき項目をカセットに録音して、通勤時にメモをみながら聞きました。
- 問題集の設問上の用語は初めて見るような訳のわからないものが多いので、インターネットで調べるのが、効果的。
- 問題集について～A.理屈で理解できるもの B.暗記せざるをえないもの 双方を区分し、B については受験当日も復習を繰り返しました。
- PartⅢ、PartⅣ対応として、私の場合は経営学について「ゼミナール経営学(日

本経済新聞社)」、システム監査について「情報システム監査の基礎と実践(同文館出版)」を読んだ。

- ITも難しいが「基本情報技術者試験」テキスト、PC 用語事典、デジタル用語事典等、目に付く基本的系本は辞典代わりに買い揃えた。
- 「内部監査の専門職的实施の基準」を、ワープロで打ち直した。(写経)読むよりも身に良くついた。
- 実務経験がなかったので、常に問題文を読む時できる限り、頭の中で場面をイメージして、題意を理解する努力をした。

### ③ 試験中の対応方法(テクニック中心)

- 余裕を持って会場に着く・昼食に気を使う・筆記具に気を使う(多めに持って行く、気にいった使いやすいものを、等)ということが大事ではないでしょうか。
- 決して満点をとる必要はない。合格水準の得点を目指す”といった気楽さを持つ事が大切。
- 日本語で受験の場合、和訳が適切でなく意味が取りにくいときがありますので文字面に捕らわれずに問いの意味を理解するように心掛けました
- 最後まであきらめない。トイレ休みをしっかりとる。
- 試験問題は誤りを求めるものは「×」マークと正解を求めるものには「○」マークをつけ、各選択文の頭に「○か×」を付けて、間違わないようにすると、ケアミスが防止できると思います。
- 問題用紙に解答と自己診断マークを記入 自己診断:○=まず正解であろう。△=微妙(△a,d → a か d で迷う) ×=考えてもわからない(知識がない) ・全問解答(=マーク)後、時間を意識しつつ見直す。例えば、時間に余裕がなければ、△印の問題のみ集中検討する。
- 回答が1個に絞りきれない時は、一番正しいと信じるものを「◎」、正しいかもしれないものに「○」にしておいて、後でもう一度見直すが効率的かと思います。
- 当日も試験会場の寒暖に対応できるよう衣服を準備したこと。
- 弁当持参のほうが、時間に追われずにすみます。
- 時計は忘れないように(忘れて時間配分に困ったので)
- 英語に抵抗がなければ極力英語で受けるべし。誤訳や不明瞭さを排除できる。
- わからない問題は、一番正しいと思われる答(カンでもいい)を選んで先に進む。(この問題を見直す時間がない可能性があるため)
- 老眼鏡の新調,目薬持参。
- 125問を3.5Hに割り振り、30分毎の問題数の進捗をチェックした。
- 体力、知力、維持の為バナナとカロリーメイトを持って行き、ラストの休憩時間に

食べました。

- 得意分野、過去問題と類似問題を先にすまず。解答は、一発集中力を出し、見直しはしない。見直しは正答から誤答に修正するケースの方が多い。

自由意見および合格体験記に記述された事項については、あくまでも個人的な意見であり、合格を保証するものではなく、また現在の状況と異なる箇所もあることをご了承願います。

以上

## 合格体験記

### 小林和雄氏

1. 合格した時期・受験回数：平成 16 年 11 月、3 回目

2. 受験について

- 210 分と長丁場、しかし問題数が 125 問と多く、時間配分が大きなポイント。
- 1 問 1 分半を目安に時間を管理して、一問ずつマークシートを塗りつぶした。
- 他の問題で同趣旨のものがあったり、ヒントがあることも・・・チャンスは最大限に生かしたい。
- 問題文は、英文をほぼ直訳したもののため、かなり読みづらいところもある。問題の意図を推測して解答するように心がけた。
- 解答にあたっては、「建前」が大切。実務を担当していると、「国際基準」などが実際には遵守されていないことがあっても、「監査はこうあるべき・・・」を解答した。
- 解答に迷った場合は、最初にひらめいた答えのほうが正解の確率が高いようです。
- 時間前に退席する人もいますが、マイペースで受験すればよい。早く出てもメリットはないと肝に銘ずるべきです。
- 空調はセルフコントロールで。
- 100 点満点を取る必要なし。80 点でよい。マークのミスなど不注意を減らすことが肝心です。

3. 勉強方法

- 「模擬試験問題集」と CIA レビューコースのテキストを徹底的に学習した。理解できないところは丸暗記した。
- 試験は、「パート 1,2」と「パート 3,4」の 2 回に分けて受験。私には、この程度がちょうどよかった。
- 勉強時間は、直前 3ヶ月間一日平均 2時間程度。
- パート 3 は、一度失敗。二度目で合格した。
- 「CIA レビューコース」:役に立ちます。ただし、必ず合格というわけではありません。
- 「CIA レビューコース」パート 3 を 2 回受けましたが、講師が同じであったためか、内容・テキストともほとんど変更がなかった。参考書を知りたかったが、「何でもいいので、索引のしっかりしたものを」とのことで、具体的な書名は教えていただけなかった。
- 苦手のパート 3、とくに IT は、不合格になった後、インターネットを使って英字略

号を調べて確認した。

#### 4. その他

- CIA 資格は、監査のプロとしての第一歩。取得後の日々の研鑽が重要である。CIA フォーラムなどを通じて、幅広い視野を身につけることが肝心で、私も努力を続けたい。

以上

#### 参考図書(出版社名)

- 「内部監査基準」(日本内部監査協会)
- 「内部監査基準実施要綱」(日本内部監査協会)
- 「倫理綱要」(日本内部監査協会)
- 「内部監査の専門職的实施の国際基準」(IIA)
- 「実践要綱」(「Practice Advisories」) (IIA)
- 「模擬試験問題集(現在の名称:CIA 試験参考問題集)2002」(日本内部監査協会)
- CIA レビューコーステキスト

## 西原浩文氏

### 1. はじめに

(1) 合格した時期及び受験回数:平成 17 年 5 月。1 回目

### (2) 受験動機

- 内部統制監査が開始されることが明らかになったため。また、事務所から受験を推奨されたことや費用の補助が出るため。

### 2. 受験時の感想

- できたかどうかの感触があまりない。もう 1 回同じテストをしたら結果は違っていたかもしれない。
- 時間は十分あるので、一通り見直しは可能。1 回目と2回目で正解と思われるものが異なる問題があったが、1 回目に正解としたものを信じた。それがよかったのかもしれない。

### 3. 勉強方法

#### (1) 学習開始

- 受験は5月で半年ぐらい前の11月から。真剣にやり始めたのは1月から。ただ、直前の4月・5月は仕事が忙しくてなかなか時間が取れなかった。

#### (2) 受験に向けて気を配った点や学習のポイント

- 公認会計士の資格を持っているのでパート4は免除。
- CIA 試験参考問題集 2004 をひたすら解いた。同じ問題を2・3日続けて解いて間違える問題をできるだけなくすようにした。解答に納得がいかないものもあったが出題者と同じ思考を持つように努力した。
- 「レッドブック」はCIA 試験参考問題集の解答の参考として使用した。
- 「実践要綱」も読んだがすぐ眠くなってしまった。CIA 試験参考問題集の答え合わせの際に参考にする程度でよいと思う。
- 実践的内部監査の実務は、内部監査の最近の流れを知るために購入した。
- 情報技術に関しては最新の知識が不足しているので、参考書を購入した。(情報処理教科書2冊。どちらかという和基本情報技術者の方が役に立った。)
- その他わからないことは、インターネットで検索して調べた。

#### (3) その他、学習時のエピソード

- まとまった時間がなかなか取れないので、時間がある時に自宅や喫茶店などで問題集を解いた。

### 4. その他

#### (1) 今後受験する方へのアドバイス



- CIA 試験参考問題集 2004 をひたすら解くのがよい。情報処理に限らず特定分野に関して不得手の人はその分野の参考書を買えばある程度まとまった知識が得られる。また、参考書などに載っていないものについてはインターネットで調べれば大体のことはわかる。暗記力もものを言うので短期決戦型で臨むほうがよい試験だと思う。

(2) 今後やりたいこと

- 2009 年 3 月期から開始される内部統制監査が差し迫っており、当面はそれに注力することになる。

以上

参考図書(出版社名)

- 「CIA 試験参考問題集 2004」(日本内部監査協会)
- 「内部監査の専門職的实施の国際基準」(IIA)
- 「実践要綱」(「Practice Advisories」)(IIA)
- 「実践的内部監査の実務」(同文館出版)
- 「情報処理教科書(基本情報技術者)」(翔泳社)
- 「情報処理教科書(システム監査技術者)」(翔泳社)

## 高瀬浩幸氏

### 1. はじめに

#### (1) 職歴

- 1986年 日本電気株式会社入社 事業場経理、営業経理を経験して、1999年より内部監査部門。2004年に CIA 試験合格。監査以外に、MBA(経営学修士)、日本経営品質賞審査員(2003年～2006年)。経営品質向上コンサルティング活動に従事。

#### (2) 受験動機

- 上司が CIA 試験に 1 回目の受験で合格し、それがきっかけで部下に CIA 資格取得を推奨したことから、監査部門で総力挙げて取得するようになりました。また、各人の役割における要求事項として、「CIA 試験合格」が課せられるようになったことも動機となっています。したがって、自主的に取得しようという気持ちでなく、切羽つまった状態で取得を目指したというのが本音です。

#### (3) 合格した時期・受験回数:平成 16 年 11 月、4 回目

### 2. 受験について

- 試験時間はパート毎 3 時間半とたっぷりあるので、普通にやっていたら時間は余ります。最後までいる人は、半分もいなかったと思います。記述式ではなく、マルチプルチョイス形式(MC)なので、肉体的に疲れる試験ではありません。試験問題は、英語の問題を日本語に訳しており、日本語に馴染まない英語もあるため、問題文・選択肢を読んで理解するのは、相当の時間を要します。
- パート毎 125 題の出題がありますが、全部を採点するわけではありません。つまり、125 問のうち採点されない問題があります。どれが採点されるかは、分かりません。受験生は 125 問全部に解答しないといけないようです。
- CIA 試験は、米国の試験であることを頭に入れることが何よりも大事です。日本の商習慣や会計慣行、コーポレートガバナンスをもって考えることは思い違いとなり、誤答となる可能性が高いように感じます。
- 試験時間中、トイレに行くことは認められるが、記録をとられています。何度何度も席を立つのはあまりよくないように思います。しかしながら、トイレに行ったことが、合否に関係することはまずありません。
- 飲み物、筆箱も机の上に置いていても、指摘されたことはないのですが、問題ありません。
- 試験の実施要領や問題の最初のページに書かれている注意事項はしっかり読んでおくことは、冷静さを保つ意味でも重要です。
- 解答に迷ったら、消去法などで絞り、正解率をあげる工夫をすることが合格につながります。

- 試験会場は選ぶことができません。空調などはセルフコントロールが大事です。

### 3. 勉強方法

- 勉強方法としては、独学、日本内部監査協会の講習や教材(模擬試験問題集など)、受験対策のスクールに通うが挙げられます。
- 短期で効率よく勉強したい場合は、CIA 受験対策を実施している学校に行かれた方が手っ取り早いです。昔は、ANJOがパイオニアでしたが、ANJOが閉鎖し、U. S.エデュケーション・ネットワークが受験対策コースを開設しています。講義のほかに、直前期は模擬試験も実施されており、かなりの対策になると思われます。
- 次に講習や教材ですが、日本内部監査協会が試験約 1 ヶ月前に実施している「CIA レビュー」がお勧めですが、必ずしも講習で出てきた演習問題がそのまま出題されるとは限りません。しかしながら、出題傾向を理解する上で、良い講習だと思います。教材は、Gleim の教材「CIA Review」が良いと思いますが、英語が苦手な人にとっては、少しつらいかもしれませんが、この際、頑張って勉強するのもいいかと思います。英語の力、特にリーディングは飛躍的に伸びると思います。CIA試験は、米国の試験であり、どうしても日本語に訳してしまうと、なかなか伝わらないことが多々あります。英語で理解したほうが良い場合も多いです。
- 独学の場合は、かなりの実務経験(特に海外)や豊富な知識をもっている方には適していると思いますが、通常は無理な学習方法だと考えられます。
- 勉強方法は、今までの実務経験がない場合は、いきなり演習問題をやらず、監査についての一般的な理論を理解する必要があります。演習問題をいくらたくさんやっても、本番での実力レベルには達しないと思います。
- 学習の前に、試験範囲のシラバスが日本内部監査協会のホームページで公開されていますので、しっかり読んでおきましょう。どんな資格試験でもいえることだが、まずは敵を知ることが何よりも大事だと思います。
- パートⅠは、実施基準を理解していればほとんどの問題は解けるとと思います。実務で監査をやっているならば、想像または推測できる問題が多く、取り組みやすいパートと言えます。しかし、日本的な発想で問題を解くと不正解になる問題があります。
- パートⅡは、監査の実施がメインの出題テーマとなりますが、受験生が苦手とする不正やサンプリングの問題が出ます。サンプリングは、実務でも役立つ知識ですので、この際、苦手を克服しましょう。
- パートⅢは、財務会計、管理会計といった経理の問題が主です。経理的なバックグラウンドがある人にとっては、比較的簡単なパートかもしれません。もし、経

理的な知識がない方は、最低でも日商簿記 2 級レベルの知識を身につけることが合格への近道と言えるでしょう。

- パートIVは、いわゆる経営学です。コラーの原書をお読みになっている方や、MBA 的な知識がある方にとっては、回答は容易に出来るでしょう。4 つのパートのうち、一番正解を見つけやすいパートとされています。

#### 4. その他

##### (1) 苦労したこと

- やはり「試験問題文の分かりにくさ」でしょう。英語問題文の日本語訳のため、意図しているところをいかに理解するのが難しかったように思います。
- サンプルング、ITなどの新しい知識は、飲み込みが悪く、理解するのに時間がかかりました。

##### (2) これから受験する人へ

- CIA 試験は、内部監査で仕事をする上での、最低限のお作法です。したがって、CIAを取得したからといって、監査の品質および能力・スキルが飛躍的に向上するものではありません。資格を持っていなくても、内部監査部門で仕事はできます。現に CIA 試験に合格しても、何も進歩していない人も多く聞きます。資格取得が目的化してしまっている人が多いのが現実のようです。
- CIA 取得後は、CIA フォーラムでの研鑽や自身での研究活動が必要だと思います。CIA 試験はあくまでも監査入門であり、本当の意味での監査は、もっと奥深いものがあります。入門という扉を開けて、監査の醍醐味をダイナミックに感じるためにも、CIA 試験合格を勝ち取りましょう。

以上

#### 参考図書(出版社名)

- 「模擬試験問題集(現在の名称:CIA 試験参考問題集)」(日本内部監査協会)
- 「CIA Review」(Gleim)